

平成18年9月26日
大阪市消防局
総務課広報担当
TEL：06-6532-8019
FAX：06-4390-2055

救急隊の増隊計画について

大阪市は、救急出場件数が平成8年から平成17年までの10年間で約1.5倍に増加して年間20万件を突破し、また現場到着に10分以上要した事案が1万件を超え、救命の観点から猶予ならざる状況になっていることから、平成19年度中に10隊を加え、合計60隊とする予定です。

10隊の増隊については、5隊を消火活動や人命救助活動に極力影響を及ぼさない範囲で消火隊との乗り換えにより運用し、残る5隊（1隊9人×5隊＝45人）については新規採用により要員を確保します。

救急増隊計画

消 防 局

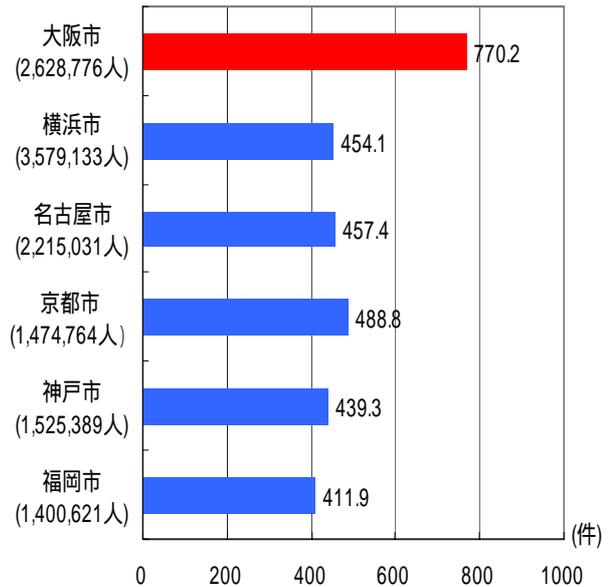
年 月	採 用	整備隊数	整 備 方 法	
			乗り換えによる増隊	人員増による増隊
平成 18 年 10 月	9 名			
平成 19 年 4 月	36 名	5 隊	4 隊	1 隊
平成 19 年 10 月		4 隊		4 隊
平成 20 年 1 ~ 3 月		1 隊	1 隊	
計	45 名	10 隊	5 隊	5 隊

救急出場件数は、他都市と比して、総件数、常住人口あたり、救急隊1隊あたり、すべての数値において、突出して多い。

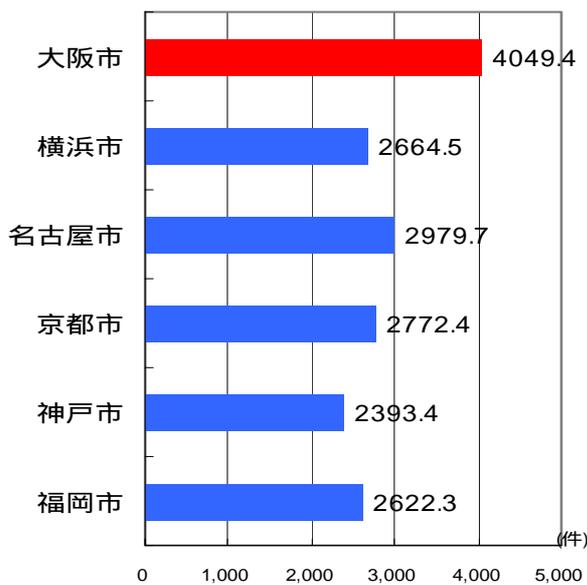
救急件数



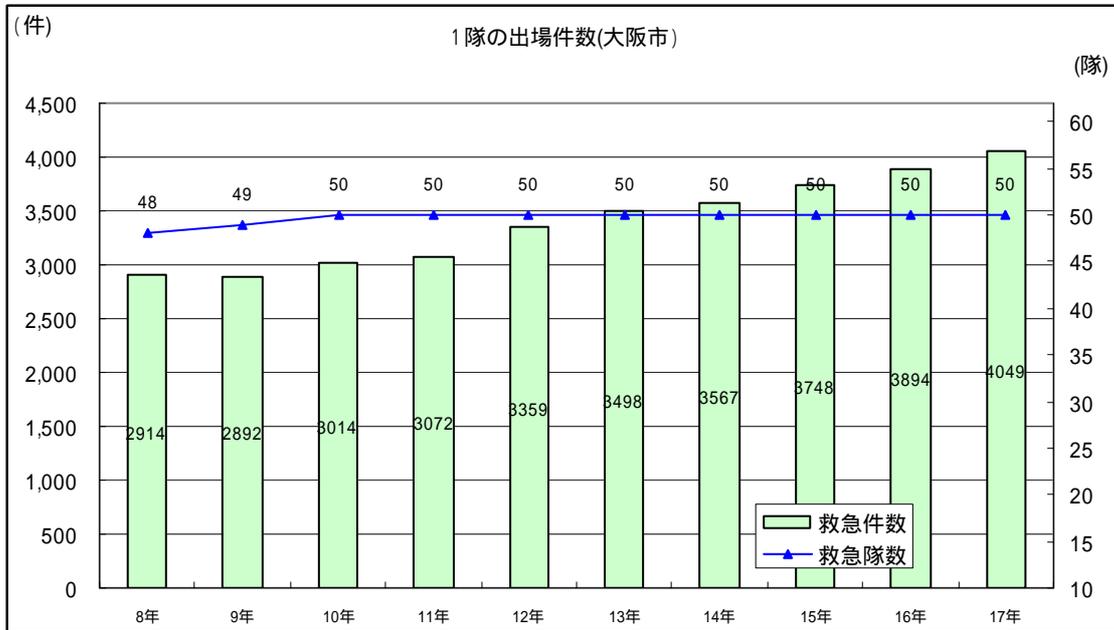
常住人口1万人あたりの救急件数
()内は常住人口



1隊あたりの出場件数



救急件数は、平成8年から平成17年までに約1.5倍に増加したが、救急隊数は、平成10年から変動していない。

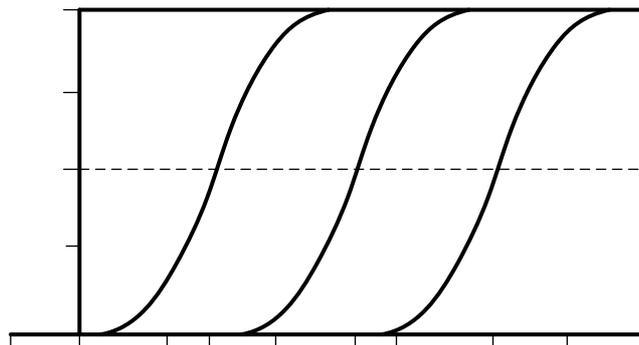


	8年	17年	増減	比率
出場件数	139,887	202,468	62,581	145%

現場到着時間

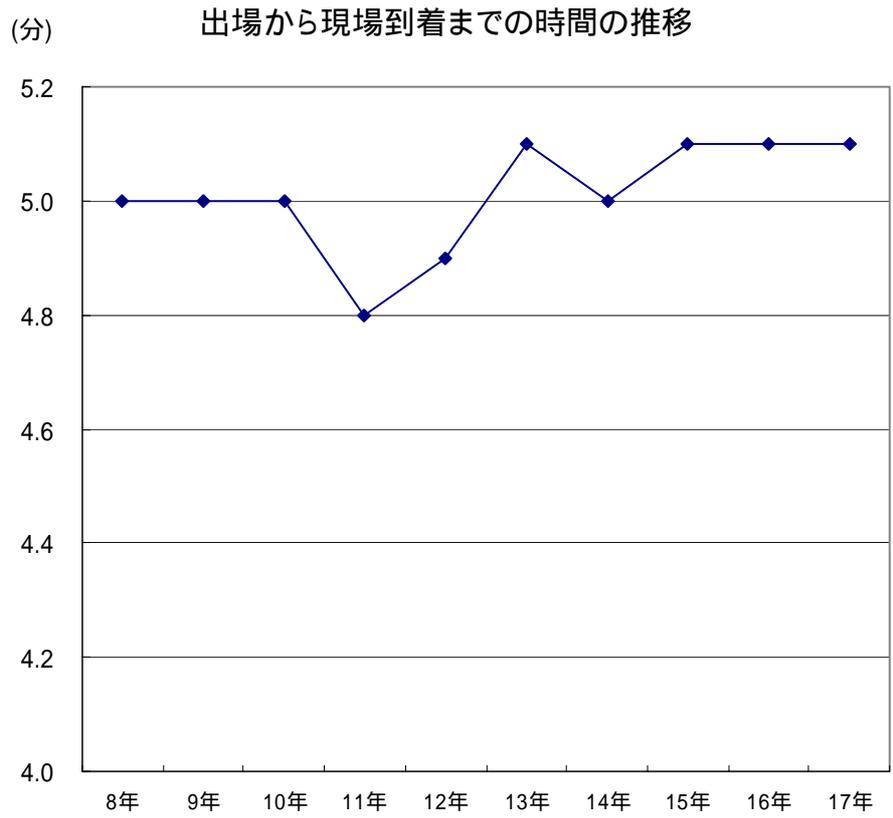
5分の意義

救命のためには一刻も早い処置が必要である。カーラーの救命曲線よれば心臓停止後約3分で50%死亡し、約5分経過すると死亡率はほぼ100%になる。



M.CARA フランス 1981年「救急状態の分類試案」(救急医療システムの計画と組織化)の報告から

消防情報システム「ANSIN」の動態管理による直近隊編成の効果や市内 100 ヶ所の救急医療機関(二次・三次医療機関)の整備状況により、平均現場到着時間は、何とか 5 分を維持している。



* 平成 10 年 4 月に消防情報システム「ANSIN」を運用開始

救急需要増加要因として、高齢者の軽症、高齢者の中等症、非高齢者の軽症の増加分が、それぞれ3分の1ずつを占めていることが分かる。

